

「燃えろ築山！」

(第4号)

令和7年9月25日 文責 校長 池田 健一



(築山マルシェ↑)

★築山小学校の「学校だより」は、ホームページに掲載しています。

築山小学校

で検索

「できていたことを思い出し、さらに一歩前進」

夏休み明けの子供たちへの対応について学校全体としての心構えとして、次のことを確認しました。

まずは、スロースタートで。さらに、夏休み明けは、子どもたちにとって大きな変化の時期であり、学校生活への適応が難しい場合もある。子どもたちの状況を理解し、きめ細やかな配慮を行う。保護者との連携、専門機関との連携等、チームとして取り組む体制づくりをすすめる。ポイントは下の3つ。

(1) 児童理解と安心感の提供（子どもの状況把握と保護者との連携）

夏休みで生活リズムが乱れていたり、不安を抱えていたりする子どもたちがいることを念頭に置く。登校に前向きになれない子どももいるかもしれない。その場合、夏休み中の子供の様子を保護者に聞き取り、連携を図っていく必要がある。

(2) 受容と共感

子どもたちが学校生活に疲れている様子が見られたら、「きついよね、大丈夫かな？」と全面的に受け止め、安心感を提供することが重要。温かいまなざしが、子どもたちのやる気を引き出す。

(3) 「思い出してもらおう」姿勢

夏休み前にできていたことも、一時的にできなくなっているだけと考え、「一から教え直す」のではなく、「思い出してもらおう」という姿勢で接することで、子どもたちに居心地の悪さを感じさせず、安心安全な教室作りにつなげる。

「できていたのに残念だ」「〇年生に逆戻りだね」ではなく。「〇〇のようなこともできていてすごく成長していたんだよ」など、子供たちが前向きになるような言葉かけや次はこんな姿になりたいと思わせるような具体的な目標を示す。

休日明け等は、子供に限らず大人であっても、体調がすぐれなかったり生活リズムがつかめなかったりする場合があります。

夏休みが明けて、一か月が過ぎようとしています。暑い日が続いていますが子供たちは、元気に登校し、新しい目標に向かって生活することができています。ご家庭でも子供たちへの声掛けをよろしくお願いいたします。

今月のフォト



【愛校作業の様子】



【小中合同あいさつ運動の様子】

≪10月の行事予定≫

8日(水) ふれあい縦割り活動 10日(金) 前期終業式
14日(火) 後期始業式

表面のみ